

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-1

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>【人権】 [課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権は、抽象的な価値にとどまるものではなく、人々の具体的権利であることから、人権行政は、人々の具体的な権利の実現を最重視して行われる必要がある。八尾市政、『第5次総合計画』の全般を通じて、人権の実現を図る視点が必要である。 ・「部落問題」を人権に係る具体的課題として、位置づけるべきである。 ・人権教育や市民啓発に力を入れることはもとより、国際社会の人権教育の潮流を尊重し、『八尾市人権教育・啓発プラン』の強化、充実を図る必要がある。 ・人権に関わる審議会等においては、一定割合の当事者委員の参画を確保する必要がある。 ・人権の実現を図る政策があっても、差別は、人権の実現を妨げ、排除される集団を生み出してしまうことから、人権実現に向けた努力とともに、差別撤廃の取組みが不可欠である。差別撤廃に向けた人権研修を市職員、教職員、市議会議員に対して毎年実施するとともに、企業関係者に対する研修に力を入れることが必要である。 	<p>I. 基本構想に関わることがら 別紙</p> <p>(1) 同和問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 同和問題の項目をおこす 2. 同和問題解決のための基本計画の策定 3. 西郡地区の「春駒」や「鼻緒作り」などの被差別マイノリティの文化保存と継承支援 4. 土地差別の解消 <p>【参考】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の総計では同和問題が全く触れられていない・・・① 2. 部落問題の解決をめざす行政計画がない（障害者などはある）② 3. 西郡地区では、産業としての下駄の鼻緒作り、文化としての門付け芸「春駒」が生活の中にあったが、鼻緒作りは衰退し、春駒はここ数十年間行われていなかったが、近年地区住民によって鼻緒づくりを「ミニ下駄」作りで、「春駒」を春駒保存会として伝統文化伝承を行っている。

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-1

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>【ユニバーサルデザイン】</p> <p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅へのエレベーター設置などバリアフリー化が進んでいるが、高齢者の外出や観光客誘致を促進するため、安心して利用できるトイレの整備や、エレベーター未設置駅におけるエレベーター設置が必要である。また、バリアフリー情報のPRや、マップ作成などの情報発信に対する支援が必要である。さらに、少なくとも日本語・英語・中国語・ハンガルの外国語表記や点字表記を進めるべきである。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道の切り下げや、歩道へのポール設置、自転車の駐輪などにより、車椅子が通行しにくいところがある。市の福祉部門とまちづくりなどの部門との庁内連携による改善が必要である。 ・ 高齢者を対象とする市の会議がエレベーターのない施設の3階で開かれることがあるなど、配慮に欠ける例がある。公共施設は誰もが使える施設をめざすべきであり、ユニバーサルデザインの視点から課題を認識することが必要である。 	

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>【国際化】 [強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民団体主催の国際交流イベントである“八尾国際交流野遊祭”や国際交流センターのイベントに多くの外国人が参加してきており、そうした企画や取り組みが今後更に充実していくよう議論の場を設けるなど、行政、市民団体、外国人市民の連携を強化していく必要がある。市の国際化や国際交流に関わる施策や事業において、国際交流センターがもっとコーディネート力を発揮すべきである。また、市民団体ではイベントに限らず、外国人市民が親子で参加するベトナム語などの母語教室（継承語教室）の教室や日本語教室、通訳養成講座の開設など様々な活動を展開し、外国人市民が学校・地域・職場で活躍する応援を行っている。こうした活動を積極的に支援し、約7,000人に上る外国人市民の方に力を発揮してもらえるような取り組みや場作りが求められる。 ・外国人市民の方がどのように暮らしているのか一般市民に分かりにくい。分かれば、交流やビジネスにつなげられるかもしれない。また、堺市が在大阪ベトナム総領事館の誘致に成功したように、地域特性を活かした先見性のある取り組みを進める必要がある。 ・八尾は歴史資源が豊かであるなど、外国人からみても魅力的な地域である。学術交流や子どもたちの交流などにより、外国からの訪問を受け入れていくことが求められる。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人市民が暮らしやすいまちづくりを進めていくために、外国人市民のニーズ把握を行った上で、課題と解決策を話し合う議論の場を設けることが必要である。例えば、多言語表示や通訳センターの設置、学生ボランティアによる会話のサポートなどの取り組みが考えられる。 ・八尾で暮らす外国人は40カ国にも及ぶ。市の担当課には、それぞれの国の概要を把握するとともに、要望があれば通訳が紹介できるなど、責任ある対応がとれるような体制を整えることが求められる。 	<p>(2) 外国人問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民として市政参画の保障、地方参政権の実現 2. 民生委員・児童委員、人権擁護委員への外国籍市民の登用 3. 高齢福祉や年金制度における外国人高齢者に対する考慮 4. 「八尾市国際化施策推進計画」「八尾市在日外国人教育指針」の推進 5. 識字や日本語教育、通訳保障への支援 <p>【参考】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地方自治法では、住民を「区域内に住所を有する者」と定め、国籍の条件を設けていない。地方自治体判断として実現可能・・・① 2. 民生委員、児童委員は選挙人名簿に登録している中から選出されるため、選挙権のない外国人は候補者になれない。 ①同様、住民を基本として、市内居住外国人も対象をしていくべき・・・② 3. 外国人高齢者の中には、年金に加入したくても国籍要件によって加入できずに、無年金状態の高齢者が存在する。また習慣や言葉の問題から、通常の高齢福祉、施策では馴染めない外国人高齢者も多く、そういった人たちに考慮した施策が必要・・・③ 4. 教育指針をふまえて、外国につながる子どもたちが、豊かな文化を維持、継承できるために、母語（継承語）教育の推進・・・④ 5. 日本語が十分理解できないことによって、情報に格差が生まれたり、安心して生活を送ることの阻害要因となり、効果的な通訳者を派遣するためのシステムの構築。また、その一方で、日本語力を高めることによって、定着を促進するために日本語教育の保障が必要・・・⑤

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-1

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>【福祉】</p> <p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八尾は、住民が気さくで、人情・助け合い・支え合いがあって、暮らしやすいまち、あたたかいまちである。 ・地域福祉活動における行政の役割がわかりにくい。また、地域福祉推進基金の運営の見直しが必要である。 ・シルバー人材センターの活性化のためPRが必要である。会議室が不足するなど、施設が手狭となっている。立地も不便であり、会議室を常備した施設への移転も含め、改善が求められる。 ・地域の人材ストックを上手く活用するため、ボランティア（無償）とシルバー人材センター（有償）との役割分担や連携を考えていく必要がある。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弱者をきちんと支えていく必要がある。 ・在宅介護サービスに対する市民の評価、問題点をしっかりと把握することが必要である。また、市民に対して、介護サービスの提供側（ヘルパー、看護師など）の情報、問題点などをオープンにしてほしい。 ・市は、就職困難者等をアルバイト、非常勤職員で積極的に活用するとともに、八尾市発注業務の入札において、障害者や就職困難者を雇用する企業を適切に評価できる総合評価方式を導入することが求められる。 	<p>（3）障害者問題 （6）高齢者 （9）福祉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ノーマライゼーション社会の実現 2. 障害者が生きかたや暮らし方を選択する主体となれるための条件整備 3. 障害児の原学級保障とそのため「合理的配慮」の保障 4. 障害者差別禁止条例の制定 <p>関連項目：（6）高齢者</p> <p>関連項目：（9）福祉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行政の福祉化、人権化の推進 2. 人権の視点に立脚した「総合評価一般競争入札制度」の導入 3. 人権の視点に立脚した「指定管理」「業務委託」「発注」等の選定基準の整備 4. 福祉関係者における人権研修の推進

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-1

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>【男女共同参画】 [強み、成果を活かすコメント] ・「男女共同参画スペース」が開設されたことは評価できるが、環境整備や支援の充実を図り、男女共同参画の拠点とすることが必要である。</p> <p>[課題解決に向けたコメント] ・市としての男女共同参画施策を進めるために、「男女共同参画条例」の制定が必要である。また、「はつらつ女性会議」との連携も重要である。 ・ワークライフバランスの考え方を普及させるとともに、介護施設や保育所の整備など、働きたい人が働けるような施策が必要である。 ・女性審議委員が増えたが目標値に達していない。早急に達成するように取り組むとともに、あらゆる場への女性の参画についての数値目標を設定することが必要である。</p>	<p>(4) 女性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あらゆる場への女性参画の数値目標を設定する。 2. 男女共同参画スペースを男女共同参画の拠点に位置づけるため、充実・整備する。 3. 男女共同参画に関わる教育を学校教育においても推進する。 4. 働く女性、子育て中の女性など、さまざまな立場にある女性たちが参加しやすい、市民学習の環境をつくる（夜間開講、保育室の整備など） 5. 子育ては母親がするものである、という意識を払拭するための教育・啓発を徹底するとともに、保育・介護等の制度を整備し、女性の働く権利の保障を確実なものにする。 6. 女性に対する暴力（DV、セクシュアル・ハラスメント等）をなくすための政策を推進する（啓発、相談の充実、シェルターの設置や広域連携など、救済の充実）。

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-1

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>【子育て】</p> <p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八尾は、昔から、周りの住民の支えもあり、子どもたちものびのびと遊ぶことができたり、子どもを育てやすいまちであった。現在も、さまざまな見守り活動や助け合いの活動が行われており、こうした活動を盛り立てていく必要がある。 ・ファミリーサポートセンターなどの施策のPRや、「つどいの広場」等の関連事業・制度や市民活動等との連携強化が望まれる。 ・「つどいの広場」の開設など子育て支援が少し充実したが、まだまだ市民に情報が届いておらず、広報の充実などが必要である。また、次世代育成計画に則った確実な施策展開が必要である。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからも子どもたちが元気に過ごせるまちにしたい。そのためには、子どもたちが放課後に遊べる場所、活躍できる場所が必要である。 ・日本一子どもを育てやすいまち（待機児童なし、医療費ゼロなど）を目標に掲げるなど、子どもを「もっと」育てやすいまちにしたい。人口増加にもつながるのではないか。 	<p>（5）子ども</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの権利条例の制定 2. 子どもに関わる施策をつくる際には、子ども自身の意見が反映されるようにする。 3. 子どもに関する施策を、それを一番必要としている子どもと保護者が活用できるようにする方策をつくる。 4. 子どもの権利について、子ども自身と大人が学べる場をつくる 5. 子どもの虐待に特化した教育・啓発を実施する。

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-1

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生は忙しく、地域と関わる時間がないので地域の人が地域に関わることで先生をサポートできると良い。例えば、地域に在住する教員OB（退職者）にボランティアとして協力していただくことが考えられる。また、学校教育に関わりたい人に対して、きっかけづくりや関わり方についての情報提供を行うことが考えられる。 ・学校を中心として、学校・家庭・地域のネットワークの一層の充実を進めていくことが必要であり、コーディネーターとなる人材の配置が必要である。教育を中心とした活動（例：車いすやアイマスクの体験、シルバー人材センターによるゲストスピーカーの紹介）に取り組むことで「地域力」も向上する。 ・ゲストティーチャー（社会人教師）の制度はできたが有効に活用されていない。大学でもゲストティーチャーは効果をあげていることから、中学・高校でも実施していくことが求められる。社会人から学ぶことにより幅広い人間形成につながる。また、協働参画についても学ぶことができる。 ・教育サポートセンターが設置されたことは評価できる。子どもたちや、現場の教員のニーズをしっかりと把握し、教員を支える体制づくりや教員の研修、コーディネーターなどの人材育成を進めていくことが求められる。 ・現在以上に、環境教育にしっかりと取り組んでいくことが必要である。 	<p>(7) 教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員（非正規教職員を含む）に対する人権教育の充実 ・教育サポートセンター機能の充実・強化（引きこもりや不登校児童生徒などの相談・支援、教職員の相談・支援） ・高校中退生の再チャレンジの場の保障 ・人権教育推進のための教材の発行 ・各学校（園）の人権教育定着のための支援、及び点検 ・小学校低学年の学級定員の縮小 ・課題を有する学校への教職員加配 ・学校・地域・家庭をつなげるコーディネーターの育成・支援

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-1

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は、制度や社会情勢に振り回されている感がある。学校はしっかりと教育理念を持つことが求められる。 ・「人権のまち・八尾」として、「“生きる力”とは何か」について学校を中心とした調査・検討が必要である。学力だけでなく、仲間づくりや交流等も必要である。また、主体的にものごとに取り組める子どもを育てていくことが必要である。そして、「生きる力」の向上のために地域で何ができるのかを考えるべきである。 ・“できる学校”と“できない学校”に分けて方針を検討するような単純化は危険である。子どもを中心に何が原因で問題が生じているかをしっかりと分析し、親や地域の参画を得て課題への取り組みを進めていくことが必要である。 ・市民や保護者の側から先生の顔や個性、特色が見えにくくなっている。また、“モンスターペアレント”が話題となり、保護者が学校に意見を言いにくい環境ができている。保護者と先生が話をする機会をもっと作る必要がある。また、学校だけに頼らず、家庭教育や地域教育にさらに取り組む必要がある。 	

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-1

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>【医療】 [課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急医療についての情報提供の充実が必要である。 ・救急医療（1次・2次・3次）の役割分担の課題や、診療科不足の問題など、救急医療の課題を明確化すべき。患者のたらい回しを防ぐための具体的な対策を講じる必要がある。 	<p>（8）医療</p>

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-1

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ推進スタッフを配置するのは良いことである。スタッフには地域事情に詳しい職員の配置が望ましいが、たとえ最初は詳しくなくとも、地域とのコミュニケーションを重ね、信頼関係を築いていくことが何よりも必要である。また、コミュニティ推進スタッフが地域に対する理解（地域の良さ、課題、歴史）を深めていくことが求められる。さらに、配置した職員が地域をどう支援するのかというシステムづくりが課題である。 ・小中学校を統合する場合には、跡地を売却せずに、コミュニティセンターや避難所、公園などに整備し、活用することが求められる。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財源が無いから何もできない、何もしないのではなく、事業の財源がなくても取り組めることがいろいろあるという発想と姿勢で臨む必要がある。 ・各施策についてPR方法の見直しが必要。市のホームページがわかりにくい。 	<p>(10) その他：</p> <p>コミュニティ政策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ政策の柱として「差別のない人権のまちづくり」を位置づける 2. コミュニティにおける、総合的な相談や自立支援体制の整備 3. 住民のまちづくりの取り組みに対する支援 4. 公共住宅密集地域における定住可能な住宅政策の展開 5. コミュニティ単位での行政情報の開示を促進 <p>【参考】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「差別のない人権のまちづくり」を推進することによって、ノーマライゼーション社会の根付き、校区の適正化問題の整理 2. コミュニティ単位での差異を認め、社会的困難層が集住している地域からの自立支援の取り組み 3. 地域住民による各校区まちづくり協議会への支援（予算1%の確保） 4. 公共住宅密集地域におけるコミュニティバランスに配慮した持続可能な多様な住宅施策 <p>産業経済分野</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 労働行政に関する体制の確立 2. 「地域就労支援事業」の推進 3. 「社会的企業」に対する支援 <p style="text-align: right;">} P. 14 参照</p> <p>【参考】</p> <p>地方自治法および雇用対策法の改正により、市町村における雇用・労働行政が求められている。しかし現在は、経済環境部の産業政策課の中のひとつの係で担当している</p> <p>■雇用対策法第5条</p> <p>「地方公共団体は、国の施策と相まって、当該地域の実情に応じ、雇用に関する必要な施策を講ずるよう努めなければならない」</p>

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-2

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の再発見により産業を起こし、その利益により雇用を維持する。それが市民活動の活発化にもつながる。たとえば、産業集積を活かして、地元で消費するものを生産・供給することや、地域通貨によりボランティアと産業を結びつけて経済を活性化していくことが考えられる。 ・「ものづくりのまち」として全国的に有名であるが、八尾の産業の強みを掘り下げて考えることが必要である。また、強みのひとつである産業集積を成り立たせている要因や仕組みが維持・継続できるような取り組みを進めていくことが必要である。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場用地がないので他府県に流出せざるを得ない。工場移転により住宅が建つと事業が継続しにくくなる。流出防止策（例：住工混在の抑制、ネットワークづくり、道路の拡幅など）を実行する必要がある。事業所が減少傾向にあり、このままでは税収が落ち込んでしまう。 ・製造業のまちとしてのイメージが希薄である。商工業が果たしている役割について、市民に理解を求めていくことが必要である。 	<p>B-2（ひかりチーム）は八尾市の産業の安定化と活性化の方策を検討し、市民生活の向上をめざすことを主題としている。ものづくり、観光、農業、文化、雇用・就労と中小企業経営に関して議論している。</p> <p>*ものづくり</p> <p>ものづくりは八尾の伝統的産業であり、府下有数の工業生産地域となっている。したがって、将来に向けてさらに生産力の向上、工場誘致、新産業への支援、他業種との連携などを課題として取り組み、ものづくりの産業集積拡大の施策を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業集積には弱体化がみられ、商品開発力や生産力は低下してきているので、今後大企業との関係やこれまでの仕事の流れを変える必要がある。 ・ものづくり産業は流通、販売、サービス業など他業種との連携が必要である。 ・社会の変化や地域資源との関連において新産業の創出も課題となっている。 ・「もの」から「こと」の時代に対応できるようソフトを含めた産業転換が必要ではないか。 ・地場産業の活性化や高度技術の集積によるものづくりをさらに進めるべきではないか。 ・ものづくりによる雇用の増大や生活物資の安定供給が市民生活に豊かさを提供できるような施策が重要になるだろう。

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-2

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>【商業】 [課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型店に依存しすぎると、大型店が撤退した時のダメージが大きくなる。小さい店が集まって賑わう商店街となればよい。 ・空き店舗が増えてきているので、そうした店舗を上手く活用していくことが必要である。 <p>【農業】 [強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地・生産者が減ってきており、八尾の特産物は、若ごぼうと枝豆ぐらいであるが、花きなど有名なものもある。農地保有者の意向も把握しながら、八尾の農業のあり方を検討していく必要がある。 ・生産者には貴重な農地を有効活用していくことが求められる。頑張っている農家に対しては、ものづくりの職人と同様に表彰してはどうか。 ・消費者の意識改革により、地産地消を進めていくことが必要である。直売所もあるが市民に知られていない。 	<p>* 農業</p> <p>八尾の農業を大都市近郊農業生産地として位置づけ、農業生産物のブランド化を進めるとともに効率的販路開拓を行う。そうして生産性、収益性の向上に寄与する施策を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のリクレーションの場として農地利用を推進する。 ・八尾農産物のブランド化を拡大する。 ・道の駅のような農産物の大規模な販売所を設けてほしい。 ・八尾の特産品として、その加工品を含めて、観光との連携を深めるべきである。 ・観光農業の振興策を考えるべきではないか。

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-2

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>【観光】</p> <p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八尾は歴史や自然、ものづくりなど観光資源が豊富であるが、観光政策としての取組みが弱い。観光は商業活性化のほか、住民がわがまちを見直す効果にもつながる。総合計画において観光をきちんと位置づけた上で、市の所管課や推進組織のあり方も含めて検討し、観光に取り組むべきである。さらに、市の産業政策担当課、教育委員会、商工会議所、その他主要機関の連携によって観光事業推進のシステムを構築すべきである。 ・古墳、埋蔵物などの歴史的資源の活用のほか、インダストリアルツーリズムなどの工場見学、農業見学（花きなど）などの地域資源の活用により、他の産業との関係を強めて取り組みを進めることが必要である。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会や観光ボランティアガイド協会などの体制整備が必要である。また、観光マップの配布などの情報発信（PR）や、散策道の改善・整備、観光地や川辺付近などの拠点での休憩施設（トイレ、ベンチなど）の確保が必要である。 	<p>* 観光</p> <p>観光は八尾の優れた歴史文化、自然、伝統産業など地域資源を活用し、観光がもたらす社会的効用、産業経済的効用を理解しつつ、観光振興によって市民生活や経済活動に寄与するよう観光施策を推進し、八尾を楽しく、豊かで、誇れる元気なまちづくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八尾での観光振興の効果を明確に把握し、自然の保護、歴史文化遺産の保全、景観の保存などの大切さの啓発活動を行うべきである。 ・特産品開発を観光振興の一環として推進する ・観光が地域経済の活性化につながる。 ・八尾観光を市民に提供すると共に、市外からの観光客や外国からの観光客を誘致すべきである。 ・今後の観光振興のための施策として必要なことは、事業主体の組織化と連携、観光資源の開発と整備、観光情報提供のシステム化であろう。 <p>* 文化</p> <p>歴史文化、地域生活関連文化を八尾の地域資源と位置づけ、これら地域文化への理解啓発を行い、市民生活の中に取り入れ、継承保存しながら、地域社会や経済との共存をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムのような文化施設を整備すべきである。 ・河内音頭は八尾の代表的地域文化なので、機能的な保存と継承政策をとりいれるべきである。また全国的に披露し、広めるべきである。 ・文化と経済の調和を考えるべきである。 ・有形・無形の文化財の保存をに関してもっと積極的に取り組むべきではないか

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-2

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>【就業・雇用】</p> <p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが八尾の地域産業を学べる機会を設けることなどにより、子どもたちが「八尾市内の仕事」に興味をもち、「八尾で働きたくなる」ようなまちづくりが必要である。 ・市は、授産施設と連携して、授産製品のグレードアップや販路開拓、発注などで協力し、工賃アップにつなげていくことが必要である。障害者もまちづくりの担い手である。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「元気で新しい八尾のまちづくり」を考えると、「まちの元気」の源は、やはり働く場所や従業者を増やすことではないだろうか。 ・経済面での格差が広がってきており、就労機会の確保や就業訓練などの就労支援、小規模零細企業の受注拡大などの育成・支援事業等、行政による機敏で有効な対策が求められる。 ・障害者や外国人市民の雇用の場も重要である。市は率先して、障害者の法定雇用率を達成するべきである。 	<p>*雇用・就労と中小企業経営</p> <p>八尾は中小企業集積の地域であり、雇用や就業、人材ニーズに多くの課題を抱えている。したがって、これらに対する八尾独自の施策と取り組みが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業指導のネットワークをもっと機能的に構築すべきではないか。 ・職業訓練機関の充実をもっと図るべきである。 ・ニュー・ビジネス（観光ビジネス、環境ビジネスなど）に対する育成や支援政策を取っていくべきである。 ・収入や雇用の効果を上げるため市営事業を行ったらどうか（葬祭事業など）。

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-3

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口20～30万人の都市は、環境配慮の観点からも程よい大きさと思うので、そうした特色を生かして「環境先進都市・やお」をめざした総合的な環境配慮のビジョンを打ち出していくことが必要である。 ・ものづくりのまちである特色を活かした環境産業の育成が必要。八尾型のもの（太陽光、バイオマスの活用など）をつくることで雇用にもつながる。また、競争力強化のため、中小企業の環境ISOの認証取得支援や既存産業のグリーン化も進めるべきである。 <p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人を助け合う風土など、人情が厚いことを活かして、防災対策や地産地消など、暮らしの安全・安心を守る取り組みを進めていくことが必要である。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは、比較的自然災害が少なかったが、生駒山に活断層があることから、地域福祉と連携しながら、人のつながりによる防災対策を進めていくことが必要である。 ・通学路の安全確保のため、民間だけでなく行政など公的機関の協力が求められる。 ・ひったくりが多いので、通年での夜回りができるとよい。 	<p>（景観・環境について） 八尾版グリーンニューディール（環境内需）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高安山里山再生保護 <ul style="list-style-type: none"> ・里山復元（保全）活動による生物多様性（ニッポンバラタナゴ・ホタル）の保護活動とエコツーリズムの推奨 ② 八尾版グリーンニューディール構想 <ul style="list-style-type: none"> ・菜の花栽培～食用油～石鹼・バイオディーゼルへ ・廃棄物からの堆肥・飼料化のシステム作りと再生品開発 ・クリーンエネルギー（太陽光・ハイブリット車両）の推奨システム作り ③ 環境教育のすすめ <ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中学生の実践型環境教育 ・企業と大学の相互教育と実践 ・ボランティアリーダーの育成講座の実施 <p>（交通・防犯・防災について） 放置自転車対策の抜本的な改革</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 20年以上も続いている啓発活動の慢性化からの脱却 ② 駐輪場の確保並びに運営の見直し ③ 自転車道の整備と運転ルールの啓発 <p>水路を意識した防災計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ゲリラ豪雨の対策（水路の清掃・草取り・ゴミの落下防止策） ② 家庭の雨水タンク（自家ダム）の推奨 ③ 打ち水作戦などによる温暖化防止啓発

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-3

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久宝寺地区に加えて、市内各地域においてもまちなみ景観を大切にし、きれいなまちにしていける必要がある。 ・玉串川の桜並木は八尾の魅力であるが、桜の老朽化が進んでおり、植え替えなどの対策が必要である。また、地元における清掃負担が大きくなっており、観光客のマナー向上が求められる。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早くから都市開発のルールが定められてきたが、山手の方には道路幅や用途地域などの規制が住民や事業者理解されていないところ、規制の運用が緩いところがあり、ルールの浸透と徹底が必要である。 ・駅周辺整備にあたっては、八尾のまちにあった「かたち」「やり方」を柔軟に考えていく必要がある。 ・公共施設や公園、歩道などの都市基盤施設の整備は一定進んだが、市街地の公園や山側の歩道が少ない。また、歩道や散策道の案内表示の整備、公園などの適切な維持管理が求められる。 	<p>住教育によるまちづくりと人づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会に参画し、人間関係を築く為のコミュニケーション力の育成 ② 学んだことを活用する力や自立の育成 ③ 資源や環境に配慮したライフスタイル ④ 暮らしの知恵と豊かさを継承し、発展させる力 ⑤ 八尾市住宅マスタープランの継続実施

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-3

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山や川、池などの自然に恵まれていることは八尾の魅力である。貴重種（バラタナゴ等）の保護のため、市は市内連携により保護対策を進めていくことが必要である。また、里山が適切に管理されるような仕組みづくりが求められる。 ・高安山は大都市に近接した貴重な自然であり、広域的な財産ともいえる。しかし、観光や散策のルールがないため、観光客と地権者とのトラブルになることもある。グリーンツーリズムの観点から高安山の活用と適切な利用を進めていくことが必要である。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの緑が減ってきていることから、市民一人ひとりが何か協力していくことが必要である。例えば、各戸に木を3本植えたり、開発に緑を誘導することが考えられる。 	

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

B-3

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>[強み、成果を活かすコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的に、JRおおさか東線の久宝寺駅と新大阪駅がつながる予定であるなど、広域的な交通体系を含め、大都市アクセスは良好である。 ・市域はコンパクトであり、自転車やエコカーの活用などにより、環境配慮を進めていくことが必要である。 <p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスが廃止されるなど、市内での移動が不便である。病院や企業などの巡回バスを市民利用にも一部開放できないか（有料でも可）、関係機関の協力や企業の社会貢献を求めていくことが考えられる。 ・全ての鉄道路線が大阪と結ばれており、市内での南北の移動が不便である。南北移動の不便を解消するための新しい交通システムの検討が必要である 	<p>(土地利用・都市・について)</p> <p>都市交通の問題点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① JR久宝寺駅を中心とした都市型景観づくり ② 市内循環バスの整備 ③ 市南と市北との交通網・下水道の整備 ④ 調整区域と市街地のゾーニングによる整備

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポートの市民懇談会からのコメント
と現在検討されている内容との対比表

検討事項整理参考資料

第4次総合計画「やお未来・元気プラン21」総括レポート の市民懇談会からのコメント	現在検討されている内容（6月4日時点）
<p>[課題解決に向けたコメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住工混在に伴う住環境の課題への対応が必要である。また、住宅のソーラー化（太陽光・太陽熱利用）を推進することが考えられる。 ・住宅政策として住教育を位置づけているのは大変良いが、市は住教育をNPOに任せきりである。都市計画部局と教育委員会との連携した住教育や、子どものころから市民がすまいやまちに興味を持ち参加できるような情報提供や機会提供が必要である。 ・市営住宅の機能更新事業を住民とともに進めたのは良いが、建替えや改善が計画通りに進んでいない。引き続き、住民参加での機能更新に取り組む必要がある。また、住民の高齢化が進み、独居率が高くなっていることから、完成後のコミュニティづくりも視野に入れた事業の進め方が大切である。 ・市営住宅の公正、適正な運営が求められる。 ・公営住宅の外国人市民入居者へのケアを、庁内で連携をとりながら適切に行うことが求められる。 	